



福祉推進員研修会

～地域福祉活動の担い手としてこころがけていること～

7月20日(水)古牧公民館で各区の福祉推進員30名が参加し、古牧地区福祉推進員研修会が開催されました。講師には西和田区の井原壽行氏をお迎えし、「地域福祉活動の担い手の一人として心がけていること」と題して講演をいただきました。

井原氏は、長年に渡り、住民自治協議会、地元の西和田区で福祉活動に携わっており、その経験から「幸せ」、「支えあい助け合う」、「健康で長生き」、「感謝して暮らす」をキーワードに皆が幸せになるためと言う目標に向かって何をすべきか、地域福祉活動に関わっている福祉推進員の果たすべき役割などについてお話がありました。

研修終了後のアンケートでは、参加者から「福祉推進員が各区でどのように活用するのか支援のシステム作りは必要」、「日常の忙しい生活では気づけなかったこと、意識してい



なかつたことを改めて振り返ることができた」、「感謝して生きることは健康につながると周りの人にも伝えてみようと思いました」などの声が寄せられました。

この研修会はコロナウイルス感染症の感染防止を図るため、参加者を制限して3回に分けて開催を計画しており、第2回は8月25日と第3回は9月16日の予定です。

(福祉健康部)

古牧小からのうちわのプレゼント

7月21日(木)暑い中、大きな段ボール3つを抱えて古牧小学校の児童代表4名の皆さんがうちわを届けてくださいました。

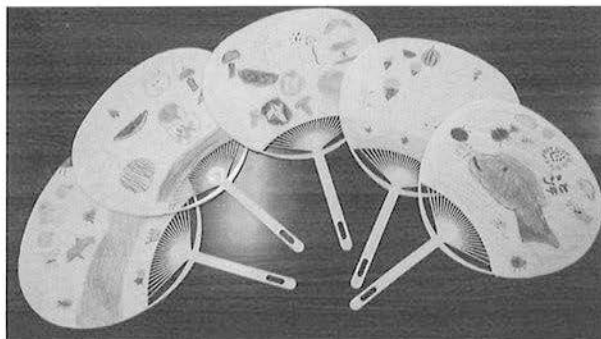
このうちわは、地域の高齢者のみなさんに暑い夏を快適に過ごしていただくため、毎年、古牧小学校の全校児童が製作しているものです。

児童の代表から「地域の高齢者の皆さんでお使いください」とあいさつがあり、古牧地区を代表して古牧地区民生児童委員協議会の和田健夫会長と主任児童委員の井原きみ枝さんに受け取っていただきました。

和田会長から児童に御礼の言葉とお手紙を送りました。

コロナ禍の中、児童のみなさんが貴重な授業時間を使って製作していただいたうちわはどれも夏らしい絵が描かれている力作ばかりで地域の高齢者のみなさんには本当に心温まるプレゼントです。

(事務局)



防災研修会を開催

～大地震に備えるための地域の取り組みとは何か～

7月23日(土)古牧公民館で自主防災連絡会の役員、各区の区長、防災指導員が参加して防災研修会が開かれました。

講師には信州大学学術研究院の廣内大助教授をお迎えして「大地震に備えるための地域の取り組みとは何か」というテーマでお話がありました。

まずは2016年に発生した熊本地震を例えに地域防災の取り組みについてお話がありました。熊本地震は活断層が活動した内陸直下型地震で、これまで知られていた活断層の位置と2016年熊本地震で出現した地表断層の位置はおおむね一致しています→活断層図の有効性が示されました。

それでは古牧地区周辺の活断層はどこにあるかということ1847年「善光寺地震」を起こした震源断層とされる活断層が飯山市北部～長野市南部の58kmに分布し、長野市直下を走っています、少し離れたところには糸魚川-静岡構造線活断層があり、いつ地震が発生しても不思議ではない状態です。

地震に備えるために個人、自治組織として必要なものは3つあります

1. 壊れない家(建物) 阪神淡路大震災で死亡した人の80%は圧死です。
2. 最低限の備蓄 災害直後は食事配布まで1時間以上要する場合があります。また、高齢



者は食事配布に並べない人もいます。一方、支援物資は届き始めると大量になり山積みとなります。

3. どうするか取り決めと日頃の訓練(そして住民同士のネットワーク)

長野市一般行政職員約1,768名長野市人口369,913人なので職員一人で209人の対応になりますから発災時に市役所が駆けつけて何でもしてくれるというのは幻想で実際には無理です。

そこで住民自治組織の役割は大きくなります、役割としては災害発生個所の確認、住民の安否確認、独居老人などの要援護者対応、怪我人の応急処置と搬送、避難所の開設運営などです。

自治組織=ネットワークが機能しないと対応できませんので、大地震に備え日頃から地域にあった創意工夫が必要とのことでした。

(総務部自主防災連絡会)

子育て支援部研修会 ～子育て支援の担うところ～

7月7日(木)古牧公民館で第3回子育て支援部研修会が開催されました。

町田福祉部会長の挨拶のあと、子ども英語ラボ講師で子育て支援部の飯森麻衣部長より、乳児期の子どもの発達にあわせた支援の心得を学びました。

ハイハイが出来るようになり、自分の力で歩けるようになるに従い、少しずつ親から離れる練習をします。

大切な事は安全や環境を配慮した上で自由に見守る事。安心して子どもが冒険が出来るように、その繰り返しで子どもは自立していきます。

また月齢によって変化する為、声かけや対応にも心がけていきたいものです。



お子さんが2歳であればお母さんも2歳。「良く頑張りましたね」の一言は、お母さんの心を軽くしてくれます。

7月7日七夕にちなんで、お星様作り、手遊び、わらべ歌、最後に飯森部長の読み聞かせで心温まる子育て支援部研修会になりました。(子育て支援部)

環境美化部研修

長野市資源再生センターへ視察研修

7月19日(火)環境美化部では、視察研修を行いました。今年度は、長野市松岡にある長野市資源再生センターに視察研修を行い、不燃・プラごみ・ペット・瓶の処理施設を見学しました。

最初に、不燃ごみピットの処理行程の説明を受け、後にプラごみの処理行程を見学しましたが、プラごみの袋の中身を4人の方が手作業で分別作業を行っているのを見て、大変な作業だと感じました。

資源再生センターで一番困っているのはスマホ・電子タバコ・デジカメ等に用いられるリチウム電池の持ち込みだそうです。リチウム電池は熱を持ちやすく、発火しやすく年間11,174件の持ち込みがあるそうです。以前にセンターが火事になったのも、リチウム電池



かスプレー缶の排出ではないかと言われていきます。必ず電気店かホームセンターへのリサイクルに協力してくださいと説明を受けました。改めて一人一人がルールを守っていくことが、長野市で生活していく者の責務だと感じました。(環境美化部)

古牧の歴史を見る「古牧歴史探訪」を刊行

古牧地区住民自治協議会は平成19年(2007)設立され、本年度で設立15周年になります。

15周年の記念の事業として地域の名所、旧跡などを掲載しましたガイドマップ「古牧歴史探訪」を作成し全世帯の皆さまにお配りさせていただきました。

このガイドマップは古牧地区の皆さんが大切にしている名所、旧跡などの地域資源を1枚の地図に表し、歴史などを通して、古牧地区への理解と魅力を再発見していただき地域への愛

着、子どもたちへの地域資源の継承など、これからの古牧地区づくりにおける一助になることを目的に作成しました。

是非、ガイドマップを参考に古牧地区の地域の歴史などをご覧いただければと思います。

なお、ガイドマップの作成には、古牧地区の歴史などに精通している古牧郷土史研究会の皆さんの全面的なご支援、ご協力をいただきました。(事務局)

○公園の名称の訂正

タイトル：「変わりゆく南向公園」

「…南向公園」の名は仮称で、名称は「上高田南向塚公園」になりました。

ガイドマップ、ウォーキングマップ：「中村児童公園」

「中村遊園地」に訂正をお願いします。

○数値の訂正

タイトル：「人口ピラミッドに見る古牧地区」

人口年齢3分類の表中 高齢者人口65歳以上

古牧地区23.3% ⇒23.2% に訂正をお願いします。

○ふりがなの訂正

ガイドマップ：地図番号㊸ 渡邊山蓮證寺

「わたなべさんれんしょうじ」に訂正をお願いします。

東和田の十王堂

古牧郷土史研究会 太田 和行

当区にある十王堂が創建されたのは、室町時代文安2年(1445年)といわれているが、はっきりとした記録がないため不明である。

旧市内で現存しているのは、三輪、吉田、長沼、東和田などで、当区のように寺外に建立されたお堂は、数少なく極めて珍しく貴重な遺産である。十王堂は十王信仰に基づき建立されたものであるが、そもそも十王信仰とは何か。要約すると人は死後冥土において閻魔大王をはじめとする十人の大王により生前の善悪を調べられ、善行を行なった者は極楽へ悪行を行なった者は地獄へ堕ちるといふ因果応報(勸善懲悪)の信仰である。この信仰の元となる「十王経」が中国を経由して日本に伝来したのは平安時代といわれ、

公家達の間で密かに信仰されていた。その後、江戸時代の中期頃になると庶民の間で急速に広まり、各地に十王堂が建立されるようになったといわれている。

この十王信仰は社会の秩序を保つ上で非常に大きな役割を果たし、今日に至る日本人の意識の中に深く生き続けている。

十王堂では毎年8月23日に「地藏盆祭り」が行われ、近隣住民の人達によって受け継がれている。



娑婆鉛筆

続 私と写真人生

前回の「私と写真人生」(ぶらネットこまき137号掲載)では、孫達に「趣味は最低3つ持ちなさい。大きくなったらきっと役に立つからね!」と誠じいちゃんは言いました。それでは、誠じいちゃんの若い頃に戻ってみたいと思います。
 ☆小学校5年生の頃から鉄道模型が好きになり父に教えてもらいながらボール紙で電気機関車や電車、トロッコなど作り楽しんでいました。中学生になるとHOゲージで駅舎やトンネル等を作り電気で動かして楽しんでいました。この頃から高校は工業系の電気科と決めていました。
 ☆中学1年～高校3年まで陸上クラブにも入って活躍させていただきました。100Mは1年～3年まで1位、80M

ハードルは2年～3年まで1位、リレーの選手も務めました。高校生になったら良い成績は残せませんでした。でも身体は丈夫になりました。

☆3つ目の趣味は私の人生の中で一番長くやっている写真です。写真歴は54年になります。湖水のモデル撮影、夕暮れ時の光る海と海鳥、諏訪大社の御柱、結婚式の写真など思い出します。写真事務所を20年前に始め、結婚式は200組以上楽しく撮影させていただきました。カメラもビデオも構図や色調が大切ですね。もちろん自分の心意気も…。誠じいちゃんまだまだかなあ〜。

(中澤 誠)

(注)HOゲージは、鉄道模型における規格区分のひとつ。

8月から9月までの主な行事実施日のお知らせ → 回覧等でお知らせします。



古牧地区の世帯数と人口

令和4年7月1日現在

11,780世帯

(男 13,121人)

26,560人

女 13,439人)

- 発行所 古牧地区住民自治協議会
(電話 259-8359・FAX219-1057)
(E-mail:komaki@vivid.ocn.ne.jp)
- 発行者 塩入 茂
- 編集 ぶらネットこまき編集委員会
- 印刷 SR



HP
ご覧ください